

2014年9月18日

2014年度第2回環境工学委員会建築設備運営委員会 議事録

- 日時：2014年9月18日（火） 17：00-19：30
- 場所：建築会館（東京都港区）
- 出席者：郡公子、（長井達夫）、長谷川巖、（赤司泰義）、（秋元孝之）、石野久彌、（猪岡達夫）、（宇田川光弘）、岡建雄、川瀬貴晴、古賀誉章、（小林陽一）、（坂上恭助）、佐伯美奈子（佐々木邦治 代理）、（佐々木真人）、（佐野武仁）、清水昭浩、（高井啓明）、仲野章生、（中野淳太）、（中山哲士）、（永田明寛）、（二宮秀興）、（野部達夫）、羽山広文、細淵勇人、（本間睦朗）、（松本真一）、三浦克弘、森川元樹、森本達也、（横山計三）、（吉田治典）（カッコ内は欠席）
- 配布資料
  1. 資料 2-1 建築設備運営委員会 2014年度第2回 議事次第
  2. 資料 2-2 建築設備運営委員会 2014年度第1回 議事録案
  3. 資料 2-3 2014年度第2回環境工学委員会議題（予定）
  4. 資料 2-4-1～2-4-6 小委員会活動成果報告書
  5. 資料 2-5-1 2014年度第10回建築設備シンポジウム案内
  6. 資料 2-6 日本建築学会大会（近畿）環境工学系 若手優秀発表選考について
  7. 資料 2-7 2015年大会 OS テーマ：新世代環境建築のシステム技術
  8. 資料
- 議題
  1. 前回議事録確認（資料 2-2）
    - ・ 前回議事録の確認をし、訂正なしで承認された。
  2. 環境工学本委員会の報告（資料 2-3）
    - ・ 2015年3月で設備運営委員会およびその傘下の小委員会とWGは10年を経過し、一旦廃止されるため、2015年度委員会活動計画案・予算原案および関係書類は10/20までに提出のこと。
    - ・ 2015年度大会（東海大）の論文メ切は来年4/7、プログラム編成会議は4/20に実施される予定。
    - ・ 大賞業績候補は環境工学委員会投票して決める。設備運営委員会としては中原先生をご推薦する。
    - ・ 文化賞業績候補については、建築分野以外より推薦される。
    - ・ 教育賞（教育業績）候補は、昨年新谷先生が推薦され受賞された。
    - ・ 卒業論文等顕彰事業委員会委員の推薦は、空気と熱の分野から委員が選出される。
    - ・ 基準、仕様書等のあり方検討タスクフォースでは、学会基準の作り方を検討する。裁判で学会基準が訴訟問題となった事例があったことが背景にある。
    - ・ 技術部門設計競技は2015年度で終了することになった。2015年度は環境工学、光分野の企画をもとに、環境分野全体で協力して実施することとなった。
    - ・ 2014年度大会（神戸大）の反省は、教室が狭く聴講者があふれていたという課題があった。若手優秀発表選考については、今後は環境工学分野で統一して実施する予定である。

- ・2015年度大会における、細分野において地球環境で木材の分類を入れることとなり、他の分類における名称のバランスを検討していく。
- ・2015年度大会の研究協議会ではアジアに映る環境工学の未来をテーマとし、研究懇談会は未来を担う若手研究者として奨励賞受賞者にご講演いただく。
- ・シンポジウム実施計画については、岡主査の「中小事務所ビルを対象とした省エネルギー手法と運転費削減および設備費の算定」、横山主査の「ヒューマンファクタによる環境・設備デザイン」、坂上主査の「次世代排水システムシンポジウム」について説明し、承認を得た。
- ・環境工学メールマガジン掲載依頼については、建築設備シンポジウム開催に関して、9/10に続き、9/25に再配信を依頼した。また環境工学名簿については、申し込み後に印刷をすることとなっており10/10が申込み〆切である。

### 3. 小委員会。WG 活動報告（資料 2-4-1~2-4-6）

#### 1) ヒューマンファクタに配慮した環境構築小委員会（三浦委員、資料 2-4-1,2-4-2-1~2）

8/7に第7回を開催した。居住者に人間側の視点で議論を行っている。2/23にシンポジウムを計画しており、特別講演の講演者と研究及び事例発表を予定している。

ヒューマンファクタの定義について質疑があり、環境に対する人間の反応、居住者のヒューマンファクタ、設計に対するヒューマンファクタなど現在検討中との説明があった。

シンポジウム実施計画書記載の参加費が高いのではという意見があり、資料代を含め検討することとなった。

#### 2) 環境設備に関する学会規準（AIJES）における性能レベル検討小委員会（岡委員、資料 4-4-3）

中小規模の建物を対象とした、省エネ手法による費用対効果を簡易に算出するツールのデモンストレーションがあった。1/28に「中小事務所ビルを対象とした省エネルギー手法と運転費削減および設備費の算定」と題してシンポジウムを開催予定である。

年間負荷に関しては全負荷相当運転時間法を用いて算出をしている。ユーザーが入力すべき内容を色分けした方が良いのでは、CO2原単位も出せると良いなどの意見が挙げられた。

シンポジウムではツールのメディアを無料で配布予定である。

#### 3) ガラス建築快適環境 WG（佐伯委員、資料 2-4-4-1~2-1,-2-2）

9/8に第16回を開催した。電子書籍出版に関するヒアリングを事務局と行っている。

従来の紙ベースから電子出版への移行は時代の流れである。委員会実施計画書が必要であること、著作権・版權などの問題整理については企画刊行委員会へ相談をするのが良いのではとの意見があった。

#### 4) 建築気象データ小委員会（細淵委員、資料 2-4-5）

7/5に第1回を開催した。東南アジアの気象データの収集計画、拡張アメダス気象データの直散分離と斜面日射量の計算結果の使用方法についての報告があった。

東南アジアでの気象データの収集方法について質問があり、マレーシア・タイの大学と連携を取りアメダスと同じ機材を設置して実施するとの説明があった。EPWデータの信頼性について意見交換があった。

#### 5) 次世代排水システム小委員会（古賀委員、資料 2-4-6）

8/19に第15回を開催した。12/4に「第2回次世代排水システムシンポジウム」を開催予

定である。現在、シンポジウムに向けた査読を実施しており英語の用語チェック等を実施している。シンポジウムでは設計ガイドライン（AIJES）刊行に向けたパブリックコメントとして位置づけ、人数を限定して専門的な意見をもらう予定である。年度内に発刊予定で講習会にて説明する。査読者は企画刊行委員会で決定する。

4. 2014年度第10回建築設備シンポジウムについて（資料 2-5-1）

- ・ 数名を除き、発表者の原稿がほぼでそろい、参加者募集を募る状態である。

5. 2014年度大会若手優秀発表について（資料 2-6）

- ・ 〆切が 9/20 なので、大会司会者で未提出の方は忘れずに提出のこと。

6. 2015年度大会 OS テーマについて（資料 2-7）

- ・ メール審議にて連絡のとおり、テーマは「新世代環境建築のシステム技術」となった。

7. その他

8. 次回以降開催予定

11/28（金）、2/17（火） 17:00~19:00

以上